

警察庁の発表によると、2017年に起きた75歳以上の高齢ドライバーの死亡事故は、前年比41件減の418件で、死亡事故全体に占める割合は12・9%でした。

類型別でみ

ると、車両単独でガードレール

などへの衝突が88件で最も多く、次いで車両相互の出会い頭衝突が67件でした。原因別では、ハンドル操作やブレーキとアクセルの踏み間違いなどの操作ミスが130件で最も多くなっています。

高齢運転者の死亡事故減少

ていることが浮かび上がりました。

死亡事故を起こした運転者の認知機能検査結果は、認知症のおそれ（第1分類）が7%、認知機能低下のおそれ（第2分類）が42%で、認知機能の低下が事故の発生に関係していることが浮かび上がりました。

運転に不安を感じているドライバーは、自動ブレーキなどの安全運転サポート車の導入や免許の自主返納を考えましょ



交通安全10メモ